

## 方言におけるラ抜き言葉

——井上史雄著『日本語ウォッチング』を読んで——

内 山 み ず え

はじめに

### 第一章 ラ抜き言葉とは

言葉は時代とともに変化する。言葉も生きていくのだから変わって当然なのか、それとも乱れなのか：

その中で論議されていることの一つに、ラ抜き言葉がある。そして国語審議会は「ら抜き言葉」は認めない方針を発表した<sup>(1)</sup>。個人的には文法的に正しい正しくないは別として、当たり前前だと思つて用いてきた言葉である。

では、なぜ当たり前前だったのだろうか。ラ抜き言葉は全国的な傾向ではあるが、どうやらその出所は地方にあるらしい<sup>(2)</sup>。ここでは井上史雄著『日本語ウォッチング』(岩波新書五四〇・一九九八年)の一章である「ラ抜きことばの背景」に述べられていることを検証・比較し、方言の視点からラ抜き言葉に迫つてみたい。

#### 1 ラ抜き言葉の定義

従来「見ることができる」は「見られる」、「食べることができる」は「食べられる」と言われていた。しかし、最近では「見れる」「食べれる」という言葉がよく聞かれる。このような言葉は「られる」という言葉の「ら」を抜いた形であることから「ラ抜き言葉」と称されている。

「られる」は下一段活用型の助動詞であり、一段活用・カ行変格活用の動詞や助動詞の「せる」または「させる」の未然形に接続し、受身・尊敬・可能・自発を表す言葉である。「られる」と同様の働きをするものに助動詞「れる」があるが、こちらは五段活用やサ行変格活用に接続するものである。

五段活用の動詞を同行の下一段活用に転じて、可能の意味を

もつ動詞は可能動詞である。「読める」や「飲める」といったものがそれであり、これらも元々は「読まれる」や「飲まれる」と言っていたものである。可能動詞もラ抜き言葉も似た原理の上に成り立っている。

一段活用動詞やカ変動詞の未然形＋助動詞「られる」の形で可能の意味を表していたものの「ら」が抜け落ちてしまったものを現在は「ラ抜き言葉」と言っている。

## 2 ラ抜き言葉の発生

文法的には正しくないにせよ、現在、ラ抜き言葉は確かによく使われている。今でこそラ抜き言葉は全国各地で使われるようになったが、ラ抜き言葉は地方から広がったと言われている。新しい言葉が都会や文化圏から地方に広がるということはよくあるが、ラ抜き言葉はどうやら逆のようである。以下、そのようなことを読み取れる部分を『日本語ウォッチング』から抜き出してみた（私の読み取った内容）。

○東京の調査<sup>3</sup>でも、地方出身者や親が地方出身の人にラ抜きが多いという傾向が見つかっている。

○明治時代の方言資料で、二人の文法学者松下大三郎（静岡県）と三矢重松（山形県）が、ラ抜き言葉を使うことを記していることから、東海地方・東北地方ではすでに生じていた。

○昭和初期、愛媛県でラ抜き言葉が広がっていることを調べた

論文が出ており、また戦後まもなく、長野県・岐阜県の方言で使うという報告が出ていることから、中部地方や西日本で使われていたことがうかがえる。

○『方言文法全国地図』の準備調査資料から、ラ抜き言葉の使われそうな項目八枚の地図をまとめて点数化したところ、中部地方や中国・四国地方などにラ抜き言葉が使われているさまが見えたことから、近畿地方をとりかこむ地域に分布していると言える。（このことから、かつての中央文化圏であった京都・大阪では使われていなかったことがわかる）

○各種の全国調査<sup>5</sup>でも、首都圏より中部地方の方がラ抜き言葉の使用率が高いことから、先に中部地方・中国地方などに広がったことが推測できる。

以上のようなことから、井上氏は「ラ抜きことばはこれまで一〇〇年近くかけて、少しずつ拡大したと考えられる。まず中部地方そして中国地方に生れ、徐々に周囲に広がったと思われる」と述べている。

## 3 全国の傾向

井上氏が行った調査<sup>6</sup>の「この服は小さくなったけどまだ着られる」という文脈でのラ抜き言葉の使用率を表した地図を見ると、ラ抜き言葉「着れる」の使用率は一九八〇年代生まれの中学生では、佐賀県・沖縄県を除き五〇%以上の使用率である。

七〇%を越えるところも二五県と多く、一九五〇年代前後生ま

れの親に比べると、その数は二倍になっている。地図を見ると中部地方・四国地方にはやはりかなり定着しており、また、若い世代ほど使用していることがわかる。

言葉の変化は、書き言葉は話し言葉よりも現れるのが遅い。

しかし、最近では個人の手紙や学生のレポートで見かけるようになり、論文などでも見られるようになったという。井上氏は大学の教授でもあるから、この指摘はかなり適確であろう。私自身、目上の方宛てや公的な手紙以外は話し言葉をそのまま文章化していることが多い。レポートなどでは気をつけているつもりだが、若い世代、それも中部地方出身の私にとっては無意識に使ってしまったるかもしれない。ラ抜き言葉は文法的に見ると間違っている——このことを知っている人は私の身の回りでは年齢に関係なく案外少ないように思う。

言葉の変化はニュースのアナウンサーや新聞などマスコミでは出にくい。しかし、コンビニエンスストアのミニストップのCMでは堂々と「食べれる、喋れるコンビニエンス」というキャッチフレーズが使われていた。「食べれる」は、かなり意識していないと違和感を感じないのではないだろうか。

ラ抜き言葉は日常生活で定着しつつあると言える。

## 第二章 長野県におけるラ抜き言葉

中部地方でラ抜き言葉が古くから用いられていたことは前述した。では、実際のどの程度定着しているのだろうか。私の出

身県である長野県でのラ抜き言葉の使用率を調査してみた。

### 1 調査方法

この章で扱うラ抜き言葉の使用率をみる目的から、アンケート調査を行った。(調査資料参照)

なお、アンケートは地域的には北信方言地域からの回答に集中してしまつたが、幅広い年齢層からの回答を得たいとの願いを優先した。(調査資料参照)

ここでは、年代別に集計を行っている。アンケートは県内生え抜きの者を対象とした。県外出身者が四名含まれているが、言語形成期を県内で過ごしたと判断できるものは有効とし採用している。回答者は中学生以上の男女で、中学生三四名・二〇代一九名・三〇代六名・四〇代七名・五〇代八名・六〇代以上五名の計七九名の回答を採用した。中学生には教育実習の際に協力していただき、他は友人や家族等の手を煩わして依頼して得たものである。

調査内容は「～することができ」「～することができない」といった可能表現とその打ち消し(～ここでは不可能表現という)をどのように言うかというものである。アンケートはラ抜き言葉がみられる一段活用動詞と、可能動詞がある五段活用動詞について記述式で行つた。質問の詳細については巻末に綴じて置くのでそちらを参照していただきたいのだが、独自に質問を作成したため適当でないものもあるかもしれないことをあら

かじめ断つておく。

## 2 調査結果の分析

詳細は表1〜4を見ていただきたい。ここではそれにもとづいて一つ一つの特徴を見ていく。(調査資料参照)

### へ一段活用動詞

#### ○起きる

オキレルはかなり定着している。今回行った項目の中でも、ラ抜き言葉の使用率が「見る」と並んで高い。どの世代も可能の場合よりも不可能の方がややラ抜き言葉の使用率が低いようである。三〇代までは八割以上が用いており、中学生・二〇代に至ってはほとんどと言ってもいいくらいであるのに対し、四〇代以上は六割にとどまる。

#### ○見る

可能・不可能ともに、どの世代でもラ抜き言葉が定着しており、使用率が最も高い動詞と言える。

「起きる」では不可能でラ抜き率がやや下がったが、「見る」ではほとんど変わっていない点に、共にラ抜き言葉の使用率が高いが違いがみられる。

#### ○食べる

これもラ抜き言葉の代表格の動詞であり、井上氏も「よく目にし耳にするのは、「見れる」「起きれる」「食べれる」などの

言い方だ」と述べている。しかし、他の二語に比べると私の調査ではそれほどではない。三〇代までの若い世代でも七割である。

正しい言葉はもちろん「〜られる」だが、私は「〜られる」と「〜れる」では微妙なニュアンスの違いを感じる。「〜れる」は自分の体調や感情など自分の状況によって「〜することができるといふ時に用いるのに対し、「〜られる」は周りの状況によって「〜することができるといふ時に用いられるように感じるのである。その例がこの「食べる」に当てはまるような気がする。

例えば、腹痛が治ったからなどと自分自身の状態による時は「食べれる」を、食事の支度ができたからなどと周りの状況による時は「食べられる」を使うことが多いのではないか。もちろん人それぞれであるから明確に区別することは出来ないが、例にあげたようなことが他の二語より生活の場面で多いように思う。そんなことから「起きる」や「見る」よりもラ抜き言葉の使用率が低いのではないかと推測する。

質問文では自分の感情や状態による回答となるが、周りの状況によつては「食べられる」も使うことも多い動詞だろうから、文脈よりも「食べることができるといふ言葉に注目して回答した場合にはタベレルかタベラレルか迷ったのではないかと考えてられる。

#### ○居る

これもラ抜き率が高いと言えるが、四〇代でイレルのみを使う人はゼロという極端な結果が出た。「出る」でもゼロではないにしても同じような傾向がみられる。

これは回答者自身の感情や文法意識にもよるのであるが、五〇代・六〇代以上よりも言葉の使用についてやや意識している人が多かったのではないかと思う。

おもしろいことに「居る」と「出る」では可能・不可能ともに他の世代ではラ抜き率が同じか、不可能でやや低くなっているのに対し、四〇代では逆である。

以上のような点から「居る」と「出る」は年齢が若くなるにつれてラ抜き言葉の使用率が高いというには適当でないデータといえよう。

#### ○出る

「居る」に準じる。

#### ○認める・考える・積み重ねる

これらはラ抜き言葉になりにくいものであると推測し調査を行った。今までみてきたものに比べ一目瞭然、ラ抜き言葉を使う者は少数で、特に「考える」はこの三語の中で最もラ抜き言葉になりにくいようである。

#### ○着る

井上氏は次のように述べている。

方言での possible の言い方は実は単純ではなく、個人の能力が原因になるときの表現「能力可能」(この子は幼いけど一

人で着れる)と周囲の条件に起因する「状況可能」(この服は小さくなったけどまだ着られる)で言い方を区別することが各地にある。ラ抜きことばは、この区別を表わすために一部の方言で発達した可能性がある――

このことを受けて、この項目では能力と状況の二つの場面での言い方について聞いた。若年層では能力・状況の区別なく八割以上がラ抜き言葉を使用しているのに対し、三〇代以上では六割前後である。五〇代の状況可能はキラレルが一〇〇%という結果だが、三〇代以上では区別しているというよりは混用しているといった方が適當のように思う。詳しくは次の節で述べよう。

#### 〈五段活用動詞〉

#### ○行く・飲む

五段動詞の可能表現は可能動詞としてきちんと認められている。そのため国語辞典を引いても可能動詞の形が示されている。しかし「くすることができ」という可能の意味を表わすには助動詞の「れる」を付けるのが主流であった。「飲む」でいうと「飲まれる」というようなものである。この系統は今でも各地の方言に残っているが、江戸時代後半から明治にかけてほぼ全ての五段動詞に可能動詞が広がったという。

もっとも「行かれる」という言葉だけは「行ける」になるのが遅れたようである。というのも「行く」の可能を表わすはず

のイケルは一步先に意味を変えていて「酒が飲める」の意味になり、否定形のイケナイは「だめだ」「悪くなる」などの意味で使われるようになった。だから「イケルんですか」と言う酒好きかどうか尋ねているように思われてしまったり、「イケタクなりました」などと言うとご臨終の表現と受け取られるおそれさえある。このような誤解・混同のおそれがあったため、イケル・イケナイが避けられたと言われる。だがその後、古風な表現「行かれる」と同じ発音のイカレルが「頭がおかしくなる」という別の派生的意味で使われ始めたため、今では他の五段動詞同様イケルをちゃんと可能の意味で使うようになったという。

以上のようなことから、ラ抜き言葉に並行して可能動詞についても調査を行った。詳しくは次の節に譲るが「飲む」の可能動詞ノメルは可能・不可能ともによく使われているようである。それに対し「行く」の可能動詞イケルは若年層では定着しているものの、三〇代以上ではやや分散しているようである。

### 3 比較・検討と方言的特徴

ここではラ抜き言葉のまとめとして、井上氏の指摘とアンケート調査結果を照合し、方言としての特徴をふまえて比較・検討を行う。

#### ○能力可能と状況可能の区別

中学生・二〇代といった若い世代においては、能力・状況ともに八割以上が「着れる」を用いており、その区別はないものと思われる。結果としては、保護者の代では状況可能においてラ抜き言葉の使用率が中学生よりも低いという全国傾向に一致する。

三〇代以上をみると、能力・状況ともにラ抜き言葉の使用率は五割前後である。では、その区別が出来ているかという点、実はそうでもないのである。五〇代に限っては能力可能では六割がキレル、状況可能では全員がキラレルという結果が出たことから区別はされていた。しかし、他の世代では能力可能にキラレルを用い、状況可能にキレルを用いるなど逆パターンの人もいたり、区別なくキレルかキラレルそれぞれに統一している人などがある。そのため、明白な区別はなく混同されていると思われるが、五〇代でそうであったように区別している人も壮年・老年層でいることから、方言として能力可能と状況可能を区別する傾向はあると言えるだろう。

#### ○五段動詞の本来の可能表現の残存

可能動詞が認められている現在でも、助動詞「れる」を使う形は、井上氏の指摘通り方言に残存している。

「飲む」をみると、五〇代を中心にノマレル・ノマレナイという形が使われている。ただし、若い世代にはみられず、今回対象となった六〇代以上の者にもみられなかったことから、この

傾向は失われつつあり、やはりノメルという可能動詞が一般化していると言える。

また「行く」についても前述した通り、若い世代ではイケル・イケナイが圧倒的に多く、井上氏の言うように若い人は「行くことができる」の意味でイカレルとは言わず、可能動詞をきちんと使っていることがわかる。しかし、三〇代以上ではイカレルの形もみられることから、「飲む」に比べれば可能動詞の使用率は低く、「行かれる」という言い方が「行ける」になるのが遅れたことがこのことからもうかがえる。

### ○行き過ぎた変化

方言の中には行き過ぎた変化を起こしたものがあるという。ノメルがそれにあたり、「飲む」という可能の言い方に、更に可能的助動詞「れる」を付けようとしたものである。

井上氏は北海道・中部地方・中国地方をはじめ、全国各地でノメルと言うと指摘している。アンケート調査では五〇代で数人がノメル・ノメレナイと回答している。しかし過去形になるとノメレタが二〇代・三〇代でもみられる。この「飲む」の項目のみ可能的過去を聞いているのは、可能的現在だと可能動詞の使用が非常に多いが、過去だといわゆる行き過ぎた変化を用いている人がいるのではないかとという推測からである。その通り、可能的現在ではノメルとは言わないが、過去だとノメレタという者が数名みられた。このノメレタはノメレナイと

回答した五〇代に限らず、二〇代・三〇代でもみられる点が特徴的である。また「飲める」と同様に「行ける」という行き過ぎた変化も少数ではあるがみられた。

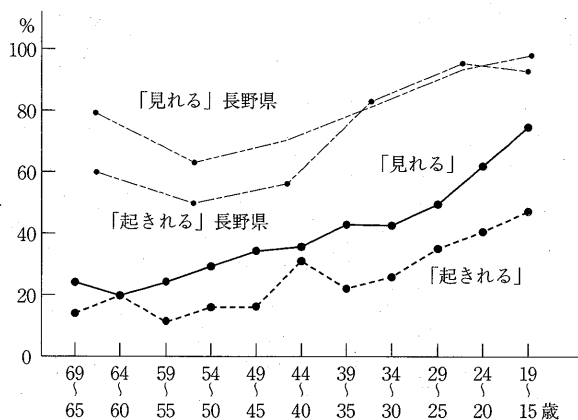
### ○首都圏と中部地方のラ抜き言葉の使用率

図1は国立国語研究所が出した東京での、「見れる」と「起き

〈図1 首都圏と長野県のラ抜き言葉の使用率

「見れる」と「起きれる」〉

※『日本語ウォッチング』の図I-1を借用し、それに重ねたもの



図I-1 「見れる」「起きれる」の使用率  
(年齢別、国立国語研究所1981より)

れる」の使用率の結果グラフ（井上氏の掲げているもの）に、今回の長野県の調査結果を重ねたものである。

このことから井上氏の指摘通り、首都圏よりも中部地方の方が、ラ抜き言葉の使用率が高いことがわかる。

○どのような言葉からラ抜き言葉は拡大していくのか

アンケート調査から、やはりラ抜き言葉の使用率は「見れる」や「起きれる」や「食べれる」など日常よく使われる動詞に多いようで、生活に密接な言葉からラ抜き言葉は拡大していると言える。また、短い動詞に多いことがわかった。井上氏は、東京では「見る」「着る」のような音節数の短い動詞からラ抜きが進行したと言っているが、地方についても同じようである。「積み重ねる」などの長い動詞は東京ではラ抜きの使用がまだみられないというが、長野県では少ないながら確認できた。また、北海道や中部地方の一部など先駆的な地域では全ての動詞がラ抜きになっていて、「考えれる」などと言うと述べているが、その点では長野県はまだ少数のようである。

一般的に短い動詞はよく使われる動詞でもあるから使用頻度数の方が作用が大きいかと思つたが、研究結果によると動詞の音節数の方が要因として一番効いているようだと言上氏は述べている。これについては、今回の調査からは微妙な見解であると思うが、「考える」や「認める」も結構使う動詞でありながらラ抜き言葉の使用率が低いことから、私としては井上氏の主

張を支持したいと思う。

以上見てきたように、ラ抜き言葉は長野県での使用率が高いと言える。また、若い人ほどよく使うという全国傾向とも一致する。しかし、若い人ほどラ抜き言葉を使用する傾向でありながら、行き過ぎた変化は中学生ではみられなかった。そして中には中学生よりも二〇代の方がラ抜き率の高いものがいくつかあった。これは、二〇代では国語教育がすでに終了し、中学生のように文法を現在学んでいる環境ではないことが影響していると思われる。つまり、正しい文法の是非よりも自分の言葉として使っていると見えるのではなからうか。この点は井上氏の指摘に加えて注目してもらいたい点である。

#### まとめ

井上史雄氏の指摘通り、ラ抜き言葉は若い世代ほど定着しつつある。また、老年層においてもかなり用いられていることから、中部地方で使われ始めたという見方にもアンケート調査の結果は一致するものと思われる。

○ラ抜き批判に対する考え

現行ではラ抜き言葉は改まった場では使うべきではないと言われている。従来、国語教育で取り扱う小・中学校の教科書などでは、本文中に「見れる」や「来れる」などを使用した例は



なく、またほとんどの国語辞書においても、それらを公認したものはない。(例外として「来れる」を見出し語とし、川端康成の『雪国』の用例「よそを受けちゃった後で、来れやしない」を引用したものが<sup>(8)</sup>ある)。また、こうして原稿をうっているパソコンやワープロではラ抜き言葉の横に添削・校正の印が多くのが現状である。

しかし、過去の新聞の投稿に「ミレルは可能を、ミラレルは受身を表わす語として当たり前に使ってきた」との意見があった。<sup>(9)</sup>私自身も投稿者と同じであり、可能・受身・尊敬の区別が明確であり、ラ抜き言葉はこの点、合理的ではないかと思う。ミラレルは受身か尊敬のイメージが強く、可能で使うことは余りない。

言葉は時と共に変わっていく。理解しやすいように変わって行く一つの言葉としてラ抜き言葉を見ると、方言としての歴史もあることから、単に言葉の乱れとは言い難いように思う。

(注)

- (1) 一九九五年、国語審議会が出した言葉遣い、情報化への対応、国際社会への対応などについての最終報告案による。その中で「共通語における「ら抜き言葉」は現時点では、改まった場では使うべきではない」と記されている。(一九九五年一〇月三十一日の「朝日新聞」夕刊による)

(2) ここでは井上氏の主張を中心に論を進めていくが、ラ抜き言葉が地方から広がったことについては、早くに言語学者の柴田武氏らが言及している。柴田氏はラ抜き言葉の拡大の理由の一つに「もとも

と中部地方と中国地方のことばで、その地方から東京に出て来た大勢の人たちが「方言」とは気づかずに使ってきたこと」をあげている。(一九八四年七月九日の「朝日新聞」朝刊による)

- (3) 一九四九年・一九七〇年・一九七四年・一九八七年に国立国語研究所などが東京や首都圏で行ったラ抜き言葉に関する調査。

(4) 松下大三是静岡県の方言で「逃ケレル受ケレル、といふなり」と、三矢重松も故郷の山形県の方言で「起される、受けれる」というと記している。

- (5) 一九八三年に全国の教育学部付属小中学校で行った調査、最近は総理府・文化庁・NHKなどの世論調査。

(6) 一九九四年前後に全国各県の県庁所在地と町村部から最低一校ずつ、計一〇二の中学校の生徒とその保護者を対象に行ったアンケート調査。

- (7) インターネットの某ホームページを検索したところ、私と同じことを感じている方がいた。

(8) 「言葉に関する問答集(文化庁)の「第一集」(一九七五年)の「問38 最近「見れる」という言い方をよく耳にするが、「見られる」の方が正しい言い方ではないのか」による。

- (9) 一九九二年一月三〇日の「朝日新聞」朝刊の「テーマ討論 日本語の乱れ」欄、一九九三年六月一八日の「朝日新聞」朝刊の「声」欄。いずれも大阪出身の河原恭一氏の投稿。

以下、調査資料を掲げます。

以上

## 調査資料

紙面の都合で「アンケート」は項目等を縦書きで列挙する形に改めた。

### ○アンケート

アンケートのご記入にあたり、次の項目にお答えください。(集計の際、参考にさせていただくためで、個人が特定されるようなことは一切ありません。)

年齢(該当するところに○をしてください。)

10代・20代・30代・40代・50代・60代以上

性別 男・女

出身地(市町村名まで)

長野県在住期間(県外出身者の方のみ) 年

差支えがなければお名前をご記入ください。

次の文の下線部分をあなたはどのように言いますか。深く考えずに、日常使用している言葉でお答えください。

例) わたしは木に登ることができない。

登れない／登れん／登れねー e t c .

1. 十分睡眠をとったので、朝6時には起きることができ
2. 体の具合が悪くて起きることができない。
3. 少し遠いけれども、一人で行くことができる。

4. 夜は怖くて一人でトイレに行くことができない。
5. この青汁はまずいが健康のためなら飲むことができる。
6. この青汁はまずいが健康のためだと思つたら飲むことができた。
7. この青汁はまずくて、どうしても飲むことができない。
8. 両親が留守の間、一人で居ることができ
9. 夜は怖くて、暗い所に一人で居ることができない。
10. ホラー映画を一人で見る事ができる。
11. ホラー映画は怖いので見る事ができない。
12. 今夜は天気が悪く、星を見る事ができない。
13. 迷路から出ることができた。
14. この穴は小さすぎて出ることができない。
15. 彼の意見は認めることができる。
16. 彼女の意見は認めることができない。
17. この事故の原因は信号無視であると考えることができる。
18. 犯人が彼女であるとは考える事ができない。
19. けがをしているが、一人で服を着ることができ
20. けがをしているので、一人で服を着ることができない。
21. この服は小さくなったが、まだ着ることができ
22. この服は小さくなったので着ることができない。
23. ダンボールを10箱まで積み重ねることができ
24. 空き缶を5個しか積み重ねることができない。
25. おなががいっぱいでもデザートなら食べる事ができる。



(No. 2)

年代	性別	調査地点 (出身地)	県内在住歴
30代	男	上水内郡信州新町	
30代	男	長野市青木島町網島	
30代	女	上水内郡信州新町大字信級	
30代	女	長野市篠ノ井	
30代	女	長野市川中島町	
40代	男	上高井郡小布施町	
40代	男	福島県相馬郡鹿島町	34年
40代	女	神奈川県足柄下郡箱根町	44年
40代	女	静岡県	40年
50代	男	上水内郡信州新町	
50代	女	上水内郡信州新町	
50代	女	上水内郡信州新町大字新町	
50代	女	上水内郡豊野町	
50代	女	上水内郡戸隠村	
50代	女	上高井郡高山村	
50代	女	長野市青木島町網島	
60代以上	男	上水内郡信州新町大字上条	
60代以上	男	上水内郡信州新町	
60代以上	女	上水内郡信州新町	
		〈東信〉	
20代	女	北佐久郡軽井沢町	
40代	女	佐久市	
		〈中信〉	
20代	女	松本市清水	
20代	女	松本市	
20代	女	松本市	
20代	女	伊那市西町区沢	
20代	女	伊那市	
40代	男	東筑摩郡生坂村	
40代	女	塩尻市郷原	
50代	女	南安曇郡豊科町	
60代以上	女	北安曇郡八坂村	
		〈南信〉	
20代	男	下伊那郡喬木村	
30代	女	飯田市鼎	

(注) 県内在住歴は県外出身者のみ記載。

〈表1 一段動詞におけるラ抜き言葉の使用率〉

	中学生			20代			30代			40代			50代			60代以上		
	ら抜き	本来	その他	ら抜き	本来	その他	ら抜き	本来	その他	ら抜き	本来	その他	ら抜き	本来	その他	ら抜き	本来	その他
起きることができる	97	0	3	95	5	0	83	17	0	57	29	14	50	50	0	60	20	20
起きることができない	88	12	0	84	16	0	83	17	0	29	71	0	38	38	25	60	20	20
居ることができる	71	29	0	89	11	0	67	33	0	0	86	14	50	50	0	40	60	0
居ることができない	68	32	0	84	16	0	67	33	0	14	86	0	38	63	0	40	60	0
見ることができる	94	6	0	95	0	5	83	17	0	71	14	14	63	38	0	80	20	0
見ることができない	91	9	0	84	16	0	83	17	0	71	14	14	63	38	0	100	0	0
出ることができる	76	24	0	79	21	0	67	33	0	14	57	29	50	38	13	40	60	0
出ることができない	—	—	—	74	26	0	67	33	0	29	43	29	50	38	13	40	60	0
食することができる	65	32	3	68	26	5	67	17	17	14	57	29	25	63	13	40	60	0
食することができない	62	38	0	68	26	5	33	50	17	29	57	14	13	63	25	40	60	0
認めることができる	6	65	29	21	79	0	33	66	0	14	57	29	13	75	13	0	60	40
認めることができない	—	—	—	5	95	0	33	66	0	0	100	0	13	88	0	0	100	0
考えることができる	3	97	0	16	84	0	17	83	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0
考えることができない	0	100	0	0	100	0	17	83	0	0	100	0	0	100	0	0	100	0
積み重ねることができる	6	85	9	11	79	11	17	83	0	0	100	0	13	63	25	0	60	40
積み重ねることができない	0	82	18	6	89	5	17	83	0	0	86	14	0	75	25	0	60	40
着ることができる (能力)	85	15	0	84	16	0	67	33	0	43	57	0	63	38	0	60	40	0
着ることができない (能力)	—	—	—	84	16	0	83	17	0	43	57	0	75	25	0	60	40	0
着ることができる (条件・状況)	82	18	0	89	11	0	50	50	0	57	43	0	0	100	0	60	40	0
着ることができない (条件・状況)	—	—	—	89	11	0	66	33	0	43	57	0	38	63	0	60	40	0

(注) 表中の一印は回答を得られなかったことを示す。「ら抜き」は「起きれる」のような言い方。

「本来」とは助動詞を使った「起きられる」のような言い方。数字はパーセントを表わす。

〈表2 五段動詞における可能動詞の使用率〉

	中学生			20代			30代			40代			50代			60代以上		
	可・動	本 来	その 他	可・動	本 来	その 他	可・動	本 来	その 他	可・動	本 来	その 他	可・動	本 来	その 他	可・動	本 来	その 他
行くことができる	97	3	0	84	11	5	66	33	0	57	29	14	25	38	38	60	20	20
行くことができない	94	6	0	84	11	5	33	50	17	71	29	0	25	50	25	60	20	20
飲むことができる	82	0	18	100	0	0	100	0	0	86	0	14	63	25	13	80	0	20
飲むことができた	100	0	0	89	0	11	66	0	33	57	0	43	25	25	50	60	0	40
飲むことができない	100	0	0	95	0	5	83	17	0	85	14	0	25	50	25	100	0	0

(注)「可・動」とは可能動詞の「行ける」のような言い方。「本来」とは助動詞を使った「行かれる」のような言い方。

表1・2ともに

- 1 小数点以下は四捨五入した。そのため、合計が100%にならないものもある。
- 2 併用はその他に含む。

〈表3 一段動詞における可能・不可能表現—回答詳細—〉

以下の結果は、中学生34名・20代19名・30代6名・40代7名・50代8名・60代以上5名の回答による。計79名。数字は人数を表わす。

(No.1)

		中学生	20代	30代	40代	50代	60代以上
起きることができる	オキレル	33	18	5	4	4	2
	オキラレル		1	1	2	4	1
	オキレル・オキラレル	1			1		
	オキレール						1
	オキラレル・オキルコターデキル						1
起きることができない	オキレナイ	28	14	3	2	2	1
	オキラレナイ	3	1	1	2	3	1
	オキレネー			1		1	2
	オキラレネー				2		
	オキランネー				1		1
	オキレン	2	2	1			
	オキラレン	1	2				
	オキルコターデキネー					2	
居ることができる	イレル	24	15	3		3	1
	イラレル	10	2	2	6	4	3
	イレール					1	1
	イラレル・イレル				1		
	オレル		2	1			
居ることができない	イレナイ	22	13	3		2	1
	イラレナイ	10	1	2	4	5	2
	イランナイ				1		
	イレナイ					1	
	イレネー				1		
	イレーネ						1
	イラレネー				1		1
	イラレン	1	2				
	イレレン	1	1				
	オレン		2	1			
見ることができる	ミレル	32	18	5	5	4	2
	ミラレル	2		1	1	3	1
	ミレール					1	2
	ミレル・ミラレル		1		1		
見ることができない	ミレナイ	30	13	3	4	3	2
	ミラレナイ	2	3	1		3	
	ミランナイ	1					
	ミレーナイ					1	
	ミレネー				1	1	1
	ミレーネ						2
	ミラレネー				1		
	ミレナイ・ミラレナイ				1		
	ミレン	1	3	2			

		中学生	20代	30代	40代	50代	60代以上
出ることができる	デレル	26	15	4		3	1
	デラレル	8	4	2	4	3	3
	デレール					1	1
	デルコトガデキル				2		
	デルコトガデキル				1		
出ることができない	デルコターデキル					1	
	デレナイ		12	3		3	1
	デラレナイ		3	2	2	3	1
	デレネー				2	1	1
	デラレネー						1
	デランネー				1		1
	デレン		2	1			
	デラレン		2				
食することができる	デルコトガデキナイ				2		
	デルコターデキネー					1	
	タバレル	22	13	4	1	2	1
	タバラレル	11	5	1	4	5	3
	タベレール						1
食することができない	クエル	1	1	1	2	1	
	タバレナイ	18	11	1	2	1	1
	タバラレナイ	11	3	2	2	5	2
	タバランナイ			1	1		
	タバレネー	2					1
	タバラレネー				1		1
	タバレン	1	2	1			
	タバラレン	2	2				
	クエン		1				
クエネー			1	1	2		
認めることができる	ミトメレル	2	4	2		1	
	ミトメラレル	22	15	4	4	6	2
	ミトメレール				1		
	ミトメラレール						1
	ミトメル	5					1
	ミトメルコトガデキル	5			2	1	1
認めることができない	ミトメレナイ		1			1	
	ミトメラレナイ		14	4	5	6	3
	ミトメラレネー				1	1	1
	ミトメラランネー				1		1
	ミトメレン			1			
	ミトメラレン		4				



(No. 3)

		中学生	20代	30代	40代	50代	60代以上
考えることができる	カンガエレル	1	3	1			
	カンガエラレル	33	16	5	6	7	3
	カンゲーラレル				1	1	2
考えることができない	カンガエラレナイ	28	15	4	5	7	3
	カンガエランナイ	2					
	カンガエラレネー	1			1		1
	カンガエランネー			1	1		
	カンゲーラレネー					1	1
	カンガエラレン	3	4				
	カンガエレン			1			
積み重ねることができる	ツミカサネレル	2	2	1		1	
	ツミカサネラレル	29	15	5	7	5	3
	ツメル	3	2				2
	ツマレル					1	
積み重ねることができない	ツミカサネルコクーデキル					1	
	ツミカサネレナイ		1				
	ツミカサネラレナイ	25	14	4	5	7	3
	ツミカサネランナイ	1		1			
	ツミカサネラレネー				1		
	ツミカサネレン			1			
	ツミカサネラレン	2	3				
	ツメナイ	5	1				1
	ツマレナイ					1	
	ツメネー	1			1		
着ることができる (能力)	キレル	29	16	4	3	5	2
	キラレル	5	3	2	4	3	2
	キレール						1
着ることができない (能力)	キレナイ		14	3	1	4	1
	キラレナイ		2	1	3	2	2
	キランナイ				1		
	キレネー			1	2	2	1
	キレーネ						1
	キレン		2	1			
着ることができる (条件・状況)	キラレン		1				
	キレル	28	17	3	4		3
着ることができない (条件・状況)	キラレル	6	2	3	3	8	2
	キレナイ		14	3	1	3	1
	キラレナイ		2	1	3	4	2
	キランナイ				1		
	キレネー				2		2
	キラレネー					1	
	キランネー			1			
キレン		3	1				

〈表4 五段動詞における可能・不可能表現—回答詳細—〉

		中学生	20代	30代	40代	50代	60代以上
行くことができる	イケル	33	16	4	4	2	1
	イカレル	1	2	2	2	3	1
	イケレル		1		1	3	
	イケール						2
	イカレル・イケール						1
行くことができない	イケナイ	30	14	2	3		1
	イカレナイ	1		2	1	4	1
	イケレナイ		1			1	
	イケーナイ					1	
	イケネー	1			2	1	1
	イケーネ						1
	イカレネー				1		1
	イカンネー			1			
	イケレネー					1	
	イケン	1	2				
	イケレン			1			
	イカレン	1	2				
飲むことができる	ノメル	28	19	6	6	5	3
	ノム	6			1		1
	ノマレル					2	
	ノメレル					1	
	ノメール						1
飲むことができた	ノメタ	34	17	4	4	2	2
	ノメレタ		2	2		4	1
	ノマレタ					2	
	ノメラレタ						1
	ノメータ						1
	ノメルコトガデキタ				2		
飲むことができない	ノメナイ	32	13	4	3		2
	ノメネー	1		1	3	2	2
	ノメーネ						1
	ノマレナイ				1	4	
	ノメレナイ					2	
	ノメン	1	5				
	ノメレン		1	1			

(注) 表3・4ともに

- 1 数字は人数を表わす。
- 2 ナー・デ・ウェなどといった終助詞がついた回答も含む。

以上